

## 菊花形の化粧道具

<http://www.kyoto-arc.or.jp>

(公財)京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館



写真1 邸宅跡で見つかった菊花形銅製品

はじめに 近代以前に「お齒黒<sup>はぐろ</sup>」と呼ぶ風習があったことをご存知ですか？

お齒黒<sup>かお</sup>（鉄漿）とは歯を黒く染める風習で、古墳時代から行なわれていたとされます。当初は木の実や植物を磨り潰した汁を用いていましたが、のちに酢酸で鉄を溶かした液である鉄漿が使用されるようになりました。皇族や貴族の間で男女を問わず行なわれ、平安時代末期になると武士階級にも広まりました。江戸時代になると、皇族や公家以外の男性は行なわなくなり、女性では既婚者や芸妓などの化粧として定着しました。奇異な風習と見た欧米人の指摘もあり、明治時代初頭には廃止され、徐々に<sup>すた</sup>廃れました。

お齒黒に使用されていたと考えられる遺物が、2005年に岡崎東天王町市営住宅で行なった発掘調査で、室町時代後期の邸宅跡から出土しました。

**遺跡・遺構の概要** 調査地は白河街区の一角に位置しています。白河街区は、平安時代後期に寺院や院御所を中心として開発された鴨川以東の街並みです。皇族によって造立された六勝寺の周辺には、道路や溝で区画された街が広がっていました。平安京の<sup>そとまち</sup>外町として、寺院や邸宅などが建ち並び、中心街路は「今朱雀<sup>いますざく</sup>」と呼ばれるほどの賑わいを見せて発展しました。応仁・文明の乱（1467～1477年）の戦火を受けながらも宅地としての利用は続いていたことがわかっ

ています。

調査では、掘立柱建物や大きな石組井戸、柵、酒などの液体物の貯蔵・醸造用とみられる甕倉などが見つかっています。遺構の重複関係と出土した遺物からは20～30年程度の時期差が認められました。（『リーフレット京都』No. 209参照）。

今回注目する遺物は、小さな銅製品です（写真1）。この銅製品が出土した遺構は、一辺約1.4mの不整な方形で、深さ0.15mの土坑でした。遺物整理箱に3箱分の室町時代後期の土師器皿がともに出土したことから、ごみ捨て穴と考えています（写真2）。この遺構が埋め戻された後には、地下式礎石をもつ掘立柱建物（1間×3間）が建てられており、建て替え以前



写真2 銅製品が出土したごみ捨て穴

の邸宅に伴う遺物と考えられます。

**菊花形銅製品** 銅製品は、土圧により一部が変形していましたが、復元すると直径約3.5 cmの碗形であったとみられ、重さは7.6 gです(図1・2)。花卉形の杯部、円形の高台部、格子文様の円形鉢の3つの部品で構成されています。高台部中央には一辺3mm四方の孔が開いており、杯部から通された鉢の先端部分を潰して固定する構造になっていました。中心が高く盛り上がる円形鉢は、鑿彫りで格子状に線刻し、蕊を表現しています。杯部は厚さ1mm程度の銅板を花形に打ち出し、16枚の花弁を表しており、菊花を模っていました。

鍍金(メッキ)は行なわれていませんが、内面に暗褐色の色素が沈着していました。蛍光X線分析を行なったところ、鉄分が多く含まれていることがわかりました。

**類例と出土状況** 出土例の最多は、福井県の一乗谷朝倉氏遺跡であり、室町時代から安土桃山時代に比定されています。おもに3つの部品からなる銅製品で、鍍金されているものが半数近くあります。その他、鎌倉市・福山市・山口市などで発見されていますが、土坑や井戸などから出土している事例が多く、墓からの出土例はわずかで副葬品にはあまり用いられなかったようです。伝世品は鎌倉時

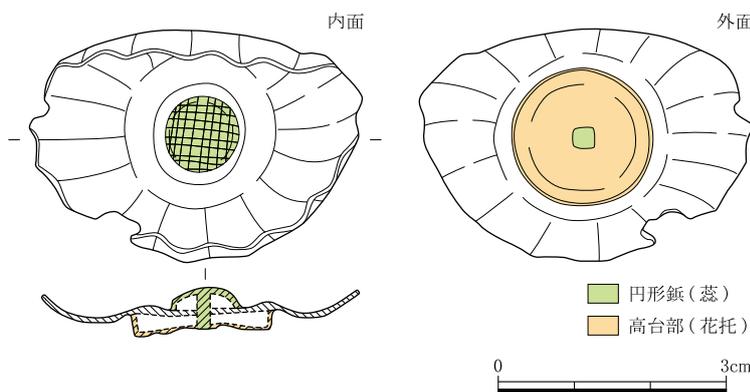


図1 菊花形銅製品実測図

代から室町時代前期の銀製品があり、神社などに所蔵されています。菊花形銅製品の多くが化粧道具の一つとされ、内容物の分析結果から、お歯黒用鉄漿入れまたは紅皿(口紅または頬紅)とされています。京都市内での出土例は、ここに掲げた1点のみで、当初は紅皿と考えていましたが、鉄分の付着を確認したことから、鉄漿入れ=お歯黒用と考えた方が良いでしょう。お歯黒用に菊花形容器が使用されるようになった理由はわかりませんが、磁器製など素材は異なるものの、形がよく似た器が平安時代末から中世に化粧道具として使用されていたことに起因するとみられています。

**おわりに** お歯黒は室町時代に特に支配階級の間で、権威を示すために象徴的に使用されていたと考えられます。また、菊花形銅製品は技術を伴う工芸品としても優れていることから、公家や武家など財力のある人々の持ち物であったといえます。

このように、お歯黒が武家に受け入れられていく中で、菊花形銅製品は化粧道具の「花形」となっていたのでしょう。(近藤奈央)

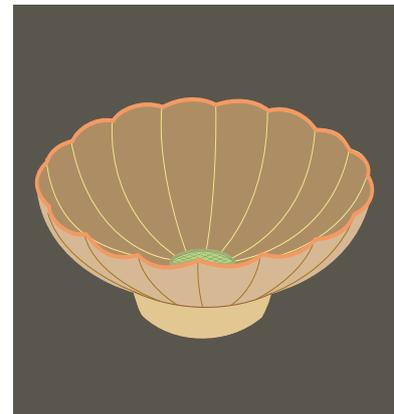


図2 菊花形銅製品復元図